

小学校を対象としたオンライン授業の実施

中央漁業指導所 伊與田 慎右

1 要約

高知県や高知県の漁業への関心の向上を図ることで、将来の漁業後継者を育成するとともに高知県産水産物の消費拡大等を目的として、兵庫県宝塚市山手台小学校の5年生を対象にオンライン授業を行った。この結果、受講した小学生からは漁業に関心を持った、漁業や魚のことを深く知れた等の感想が聞かれた。

2 背景及び目的

昨年度、中国・上海日本人学校の5年生を対象に高知県の水産業についてのオンライン授業の開催した。このとき同校に赴任していた教諭が本年度から山手台小学校で教鞭を執っていることから、授業の依頼があった。

このため、高知県と高知県の水産業のことを知り、関心をもってもらうことを目的としてオンライン授業を行った。

3 普及の内容及び特徴

(1) 実施日時

令和5年9月26日(火) 14:30～15:30

(2) 対象及び参加者等

兵庫県宝塚市立山手台小学校5年生160名を対象に高知県の水産業についての講演を行った(図1)。

(3) 実施方法

オンライン会議ソフトウェアを利用し、教室(4クラス)と当所を接続した。当所からの講演はプレゼンテーションソフトで作成したスライドを画面共有することで行った。

講演では、高知県から兵庫県の卸売市場に出荷されている魚について、高知県と兵庫県で行われている漁業の比較と高知県で行われている漁業について及び土佐黒潮牧場と情報発信について説明した。また、両県に共通する機船船びき網漁業に関連して全国のいわししらすの漁獲量やしらす干しの消費量といった話題を盛り込み、自分の住んでいる地域と高知県を比較することで水産業や高知県を身近なものに感じてもらえるよう工夫した。

講演後は質問の時間を設けた。児童がカメラの前に立って質問をし、それに答える形で行った(図2)。

4 成果及び活用

昨年度に引き続いてのオンライン授業となった。学校側も児童もオンラインでの授業や講演に慣れているようで、トラブルもなく実施できた。

兵庫県がいわしらすの漁獲量全国1位であることを児童は知らなかったようで、自身の地域のことを知るきっかけにもなっていた。また、講演後の質問については、クラスごとに事前に準備していたようで、漁業をしていて大変なことや危険なことは何かといった質問があった。



図1. 授業風景



図2. 質疑応答

(宝塚市立山手台小学校提供)